

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ベーススト研究		授業形態/必・選	講義	必修
	ベーススト研究			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	ベースコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験37年 高校卒業後、音楽学校に進学。バンド活動を経てサポート、レコーディング等のプロとしての演奏活動を開始。様々なアーティストのサポート、ミュージカルの劇伴を経験。現在はゴスペル・クワイアの演奏等で活動中。</p>					
授業概要						
時代を代表するベースストを国内外を問わず取り上げ、サウンド、フレーズ等を音楽の歴史、時代背景に紐付けながら研究する。						
到達目標						
各時代のベースストの個性を理解することから、現在自分が影響を受けているベースストのルーツを知り、より音楽的な理解を深め、自己のスタイルの確立に役立てる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	Jazz 1 1950年代 エレクトリック・ベースが登場する以前のベーススト ・チャールズ・ミンガス ・ロン・カーター ・レイ・ブラウン					
【前期】 4～6回目	Rock 1 1960年代 The Beatlesの登場以降のベーススト ・ポール・マッカートニー ・ジャック・ブルース ・ジョン・ポール・ジョーンズ					
【前期】 7～9回目	Funk 1 1960年代 Funk創世記のベーススト ・ブーツイー・コリンズ ・ジョージ・ポーターjr ・ラリー・グラハム					
【前期】 10～12回目	Pops 1 1960年代 ヒット曲の演奏を請け負ったスタジオ・ベーススト ・ジェームス・ジェマーソン ・キャロル・ケイ ・ジョン・オズボーン					
【前期】 13～16回目	Rock 2 1970年代 プロGRESSIVE・ロックのベーススト ・クリス・スクワイア ・ゲディー・リー ・トニー・レヴィン					
【前期】 17～20回目 (前期試験)	Jazz 2 エレクトリックベースでジャズの可能性を拡げたベーススト ・ジャコ・パストリアス ・スタンリー・クラーク					
【後期】 21～23回目	Funk 2 1970年代 ディスコ全盛期のベーススト ・ヴァーダイン・ホワイト ・バーナード・エドワーズ ・ルイス・ジョンソン					
【後期】 24～26回目	Pops 2 1970年代 様々なアーティストの演奏を請け負ったスタジオ・ベーススト ・チャック・レイニー ・アンソニー・ジャクソン ・リーランド・スクラー					
【後期】 27～29回目	Jazz 3 1980年代以降 モダン・ジャズ、フュージョンのベーススト ・マーカス・ミラー ・ヴィクター・ウッテン					
【後期】 30～32回目	Rock 3 1980年代以降 ロックのベース奏法、サウンドを革新したベーススト ・ビリー・シーン ・フィールディー ・アダム・ノリー・ゲットグッド					
【後期】 33～34回目	Funk 3 1980年代以降 ファンクとロックを融合させたベーススト ・フリー ・スチュワート・ゼンダー					
【後期】 35～40回目 (後期試験)	Pops 3 JPopで数々の名演を残したベーススト ・細野晴臣 ・亀田誠治 ・伊藤広規					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	各時代を代表するベースストを知ることから、現在のベーススト達が影響されたルーツを理解し、自分のベースストとしてのスタイルを見つけよう！					
使用教科書	各ベースストに関するプリントの配布、動画の視聴(youtube)、フレーズの練習(譜面を作成)					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	発展実技	授業形態/必・選	実習	必修
	ベースインプロヴァイズ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験22年 ジャズベース塚田康二氏に音楽理論を師事。 その後様々なアーティストのサポートや自身の参加するグループで活動。 現在はゴスペルバンドを中心に演奏活動を行う。				
授業概要					
様々なジャンルに対する理解と研究。 ポップス、ロック、ファンク、ジャズ、ボサノヴァ、ラテンなどアドリブでフレーズ作成。 ブルースや定番セッション曲なども取り上げ、楽曲分析と実践。					
到達目標					
自分の得意ジャンルだけでなく、必要とされた時に対応できる力を養う。 どんな状況でも演奏できる知識を学ぶ。 演奏技術向上の為、様々なジャンルの分析を行い自身のアイデアとスキルを拡大させます。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	コードトレーニング ・サイクル5によるコードアルペジオ ・Simileによる4小説のコード進行のトレーニング				
【前期】 6～10回目	ブルース曲の分析 ・ベースラインのアイデアのバリエーションを増やし、オリジナルのラインの実践。 ・いくつかのアイデアによるソロの研究。				
【前期】 11～15回目	スケールとコードアルペジオ ・Simileによる4小説のコード進行のトレーニング ・8小説のコード進行のトレーニング1				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	ロック、ポップス、ファンク曲の分析 ・ベースラインやリックのアイデアのバリエーションを増やす。 ・曲中のコード進行を使ってオリジナルのラインへの応用。				
【後期】 21～25回目	スケールとコードアルペジオ ・Simileによる8小説のコード進行のトレーニング2 ・16小説のコード進行のトレーニング				
【後期】 26～30回目	ジャズスタンダード曲の分析 4ビートのライン考察。 ・ベースラインのアイデアのバリエーションを増やし、オリジナルのライン作成。 ・いくつかのアイデアによるソロの研究。				
【後期】 31～34回目	ボサノヴァ、ラテン、レゲエ ・スタンダード曲の分析と研究。 ・代表曲の読譜、演奏				
【後期】 35～40回目 (後期試験)	セッション定番曲の考察と実践。 ・代表曲の演奏 ・オリジナルのアイデアのまとめ。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	現在の多様化した音楽シーンではベースプレイヤーにも様々な演奏スタイルが要求されるでしょう。 いろんなジャンルを知ること皆さんの対応力が向上するとともに、楽しさも増していくと信じてます。				
使用教科書	学内作成オリジナル教材の使用。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルII (前期/後期)	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルII		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	76回(152単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
<p>既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバルを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑥課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>					
到達目標					
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立つ。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>					
授業計画・内容					
【前期】 1～38回目	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲①～④ ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない(雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏、各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけでなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い「譜面に反映させる」。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>				
【前期】 39～40回目	<p>半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>				
【後期】 41～74回目	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲⑤～⑥ ・既成楽曲(課題曲⑤ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲⑥アップテンポ8ビート⇒課題曲⑦ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲⑧8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない(雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏、各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけでなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い「譜面に反映させる」。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>				
【後期】 75～76回目	<p>半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	<p>楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう! ※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝えるなどバンドメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場です。楽しみながら皆で盛り上げていきましょう!</p>				
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWⅡ(前期/後期)	授業形態/必・選	講義	必修
	DAWⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲やCMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマンニキュラとしての活動も行っている。				
授業概要					
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、Logic Pro Xの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 23回目～34回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成				
【後期】 35回目～36回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 37回目～38回目 (後期試験)	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても大事です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。				
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	楽器実技		授業形態/必・選	実習	必修
	ベースベーシックII			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1992年にロックバンドinfixのメンバーとしてメジャーデビュー。以後、ベーシストとして他アーティストのライブやレコーディングにも多数参加。楽器機材メーカーのモニターも務めています。					
授業概要						
1年生の授業で学んだ基本的な技術や知識の向上をめざします。クリックやドラム音源を使用したリズムトレーニング、コードやスケールなどの理論の解釈と活用法等、ベーシストとして必要なスキルを総合的に学びます。						
到達目標						
中級、上級フレーズを通じての表現力、フィジカルの向上。 現場に必要なテクニック、マインドを学びます。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	ベースラインの作り方① ・ルートにコードトーンを加えたベースライン。 ・ルートに経過音を加えたベースライン。					
【前期】 6～10回目	ベースラインの作り方② ・分数コードを使ったコード進行。 ・ダイアトニックコードの活用法。					
【前期】 11～15回目	ベースラインの作り方③ ・メジャーペンタトニックスケールの活用法。 ・マイナーペンタトニックスケールの活用法。					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	ベースラインの作り方④ ・ペンタトニックスケール+テンションノート。 ・ペンタトニックスケール+ブルーノート。					
【後期】 21～25回目	ベースラインの作り方⑤ ・チャーチモードスケールの活用法。 ・シャッフル等の3連符系のリズムへのアプローチ法。					
【後期】 26～30回目	ベースラインの作り方⑥ ・コード弾きやダブルストップ等の和音を弾く奏法。 ・ハーモニクスを加えた奏法。					
【後期】 31～35回目	ピック奏法 ・ダウンピッキングで音のツブを揃えてビートをキープする練習。 ・オルタネイトピッキングで16ビートのリズムや速いフレーズにも対応出来るようになる練習。					
【後期】 36～40回目 (後期試験)	スラップ奏法 ・サムピング&ブルのコンピネーションを使った練習。 ・レフトハンドヒッティングミュート等のゴーストノートを使ったフレーズ練習。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	どんなに良いアイデアがあってもそれを表現出来るスキルがなければ具現化できません。皆さんが持つ素晴らしい個性やキャラクターを発揮する為の基礎力をしっかりと身に付けられるよう指導してきたいと思います。一緒に音楽を楽しく学びましょう。					
使用教科書	学内作成オリジナルテキスト「総合カリキュラム2」を使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ジャンル別研究		授業形態/必・選	講義	必修
	ベーストパフォーマンスⅡ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ベースコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	音大卒業後アーティスト活動始動。2012年より現在ラウド・メタルバンド[VORCHAOS]にて Bass を担当。 2017年キングレコード NEXUS レーベルよりメジャー・デビュー。 アーティスト活動をしつつ他アーティストの演奏サポートにも携わっている。現在はアーティスト・表現者でのスキルアップの為芝居の勉強、役者の活動も行っている。					
授業概要						
演奏以外での必要知識、社会的常識を学びつつ運営、制作、DAW操作などのミュージシャン・アーティストとして他者と関わるに必要な事を学ぶ。						
到達目標						
アーティスト、ミュージシャンというものは一人では成り立たないという事を認識し、潤滑にLIVEステージ、制作を行うためには何が必要か、お客様や関わる人と気持ちよく仕事をするにはどうしたら良いかという思考回路を広げる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	アーティスト・ミュージシャンとして楽器以外に必要な機材。 ・DAWを扱うために必要なPCの知識。 ・データ主流の時代に対して自分が知っておいた方が良いソフトの知識。					
【前期】 5～8回目	DAWの知識 ・プラグインでのドラム、ベース、キーボード、シンセサイザーの解説。 ・DAW用エフェクターの知識、使い方の解説 ・オーディオインターフェースの理解					
【前期】 9～10回目	アーティスト・ミュージシャンの周りにいる人達。 ・活動をするにあたって関わる人達はどんな人がいるかを知る。 ・礼儀、所作 ・業界用語の理解					
【前期】 11～14回目	ステージ制作の考察Ⅰ ・必要資料の知識。 ・自分達のステージに対してPAさん・照明さんへの要望伝達の仕方、作成、ステージをどう表現するかの考察。 ・セットリストの組み方、作成、1ステージをどう表現するかの考察。					
【前期】 15～16回目	ステージ制作の考察Ⅱ ・実際にLIVEで必要な資料を提出までシュミレーション。 ・仕事上でのメールの作法。					
【前期】 17回～22回目 (前期試験)	LIVE制作に必要な知識 ・企画内容を複数パターン考え、開催までに必要な事を学ぶ。					
【後期】 23～27回目	DAWの知識Ⅱ ・オーディオデータの知識。 ・プラグインでのドラム、ベース、キーボード、シンセサイザーの解説応用。					
【後期】 28～31回目	DAWの知識Ⅲ ・レコーディングをするにあたっての知識。 ・MIX、マスタリングに関する知識。 ・ブラックフライデーでのお勧めプラグイン。					
【後期】 32～34回目	自己プロデュース ・コースイベントリハーサル ・演奏の様子を録画して教室内でディスカッション					
【後期】 35～36回目	DAWの知識Ⅳ ・納品に関する解説(2mix、ステムデータなど) ・納品する際のメールの作法					
【後期】 37～38回目 (後期試験)	音楽業界で必要な知識 ・レコード会社やレーベル、音楽出版社や事務所とは何か。 ・サブスクリプションの知識。 ・著作権や原盤権、著作隣接権などの権利に関して。					
【後期】 39回目	DAWまとめ ・DAWで8小節の曲を作成、納品までをシュミレーション。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	今年度からESPにて講師をする事になりました。昨今の音楽業界はデータの時代になっています。皆さんが活動するにあたって必要なDAWの知識、そして運営やLIVE制作などで必要な事を知った上で今後出会う沢山の友達と良い関係を築き、皆が素晴らしい活動ができるようにサポートしていきます。					
使用教科書	講師制作教材使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	応用実技	授業形態/必・選	実習	必修
	ベースアドバンス		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験13年 学生時代に複数のコンテストで最優秀賞を受賞。アニメ作品やゲーム音楽公式バンド、ゲーム音楽、劇伴などの有名アーティストのライブ、ツアー、レコーディングに参加。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・コード理論を駆使したスコアリーディングの習得 ・5弦ベースやフレットレスベースの使用方法 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・実践的なスコアの理解力を習得 ・5弦ベースやフレットレスベースを使って表現力の幅を広げる 					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	5弦ベース ・LowB弦を使ったスケール、アルペジオ練習 ・LowB弦を使った8beat、16beatフレーズ				
【前期】 6～10回目	5弦ベース ・LowB弦を使った課題曲(Rock) ・LowB弦を使った課題曲(Pops)				
【前期】 11～15回目	フレットレスベース ・スケール練習 ・イヤートレーニング				
【前期】 16～21回目 (前期試験)	フレットレスベース ・課題曲(セッション曲、ジャズスタンダード曲)				
【後期】 22～26回目	理論復習Ⅰ ・ダイアトニックコードを使った基礎トレーニング ・メジャースケール、ナチュラルマイナースケールの基礎トレーニング				
【後期】 27～30回目	理論復習Ⅱ ・ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールの基礎トレーニング ・チャーチモード復習				
【後期】 31～35回目	ノンダイアトニックコード ・マスター譜のアナライズ ・課題曲の演奏				
【後期】 36～39回目 (後期試験)	デイグリー ・デイグリーを使ったフレーズの展開方法				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	1年生で習った楽譜の理解力を更に実践的に鍛えて、現場での対応力を高めましょう。 また、現在では当たり前使用前に使用される5弦ベースやフレットレスベースを使用し、より多くの曲に対応できるように学びましょう。				
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	リズム研究	授業形態/必・選	講義	
	イヤートレーニング&スコア		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
相対音感及び読譜、PCでの楽譜作成ソフト『Finale』による譜面作成についての講義。					
到達目標					
単音、和音におけるインターバルの理解と相対音感の習得。楽譜作成ソフト『Finale』によるマスター譜、パート譜の作成技術の習得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	旋律聴音 (半音、全音、メジャースケール上のインターバル) 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認 ・五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。				
【前期】 6～10回目	旋律聴音 (3種類のトリックマイナースケール上のインターバル) 楽譜作成ソフト『Finale』の基礎操作方法。 ・組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方				
【前期】 11～15回目	旋律聴音 (その他のインターバル①) 『Finale』を使ったマスター譜の作成 (コーダ切れなし) ・リピートマークのみを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	旋律聴音 (その他のインターバル②) 『Finale』を使ったマスター譜の作成 (コーダ切れあり) ・ダカーポ、ダルセーニョを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【後期】 21～25回目	和音聴音 (トライアド4種類 Maj、Min、Aug、Dim) 楽譜の作成、読譜に必要な基礎知識の復習、確認 (音符、休符の種類、各種記号など) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 26～30回目	和音聴音 (テトラッド Maj7、6th、7th) 『Finale』の基礎操作方法 (テンキーを使った音符のステップ入力) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 31～35回目	和音聴音 (テトラッド m6th、m7th) 『Finale』でのパート譜(ギター、ベース、ドラム)の作成(基礎編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 36～40回目 (後期試験)	和音聴音 (テトラッド aug7th、m7th b5th、Dim7th) 『Finale』でのパート譜、TAB譜の作成(応用編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	演奏、作編曲において、相対音感の習得、また読譜、スコアの作成は必須のスキルです。アンサンブルの授業、各自のバンド活動等とリンクさせて意欲的に取り組みましょう。				
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	多弦実技		授業形態/必・選	実習	必修
	ベースアナライズ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	1992年ESP学園卒。LOUDNESS二井原実率いるDed Chaplinに加入し、その後X JAPAN(ToshI)のツアーメンバーを経てGERARDに加入。現在 Sound Horizon / Linked Horizon、Fuki commune、桜庭統、GUILTY GEAR×BLAZBLUE(ゲーム)、霜月はるかなど、アニメ・ゲーム音楽の分野を中心に活動中。					
授業概要						
近年の商業曲(2000年以降)のアナライズ、フレーズの分析 ポップス、ロックにおいての上級テクニックの習得						
到達目標						
近現代の曲において演奏に必要な知識とテクニックを学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	2000年以降のアニメソングや、ロック、ポップス系のアニメタイアップ曲を中心にベースラインを紹介 ・ベース以外の楽器、コード、メロディーを分析し、ベースラインの効果的なポジショニングと構成を学ぶ。 ・テンポを下げてフレーズの仕組みを分析					
【前期】 6～10回目	・フレーズを正確に演奏するための運指練習(メカニカルトレーニング) ・ユニゾンフレーズを分析し、スムーズなフィンガリングを習得する。					
【前期】 11～15回目	・複雑なリフやリズムを正確に弾くための練習(リズムトレーニング) ・多弦ベースやドロップチューニングしたベースを使用する楽曲を取り上げ、特性を理解する。					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	・前期に取り上げた課題曲の中から選曲し、総合的な練習 ・課題曲を実際の楽曲のテンポでワンコーラス以上を目安に演奏できるよう訓練する。					
【後期】 21～25回目	・劇伴音楽(ゲームのフィールド曲など)を題材に、情景に合わせた音色の表現力を身に付ける。 ・ベースソロやメロディにおける効果的なニュアンス(ピブラート、スライド)の練習					
【後期】 26～30回目	・ゲームや2.5次元、ボカロ曲などを中心にベースラインを紹介 ・コンピューターにより打ち込みで作られたフレーズなど、人間では難易度の高いフレーズをアレンジし、解決する力を身につける。					
【後期】 31～34回目	・3フィンガー、ライトハンド、タッピング、ロータリー奏法などテクニカルな奏法技術を学ぶ。 ・ロック、ポップスにおけるアレンジ上でのジャズやラテンのフレーズを研究する。					
【後期】 35～39回目 (後期試験)	・後期に取り上げた課題曲の中から選曲し、総合的な練習 ・課題曲を実際の楽曲のテンポでワンコーラス以上を目安に演奏できるよう訓練する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	僕はHR/HMのほか、アニメやゲーム音楽の仕事が多いのですが、僕自身が実際に携わった楽曲も題材に取り入れて、仕事現場でリアルに求められる内容や必要なスキルなどを伝えていけたら良いと思っています！					
使用教科書	YouTubeやCDなどを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。